

防府市人口ビジョン



平成27年10月
防 府 市

目次

I	はじめに	
1	防府市人口ビジョンの位置づけ	1
2	対象期間	1
II	人口の現状と将来分析	
1	人口の動向分析	
(1)	総人口の推移	2
(2)	年齢3区分別人口の推移	2
(3)	地区別人口の推移	3
(4)	出生数・死亡数の推移	5
(5)	合計特殊出生率の推移	6
(6)	男女別20～49歳の未婚率の推移	7
(7)	転入数・転出数の推移	8
(8)	男女別年齢階級別人口移動の状況	9
(9)	県内市町間の人口移動の状況	10
(10)	県外の人口移動の状況	11
(11)	人口動態の推移	12
(12)	産業別の就労状況	13
(13)	年齢階級別産業人口の状況	14
(14)	男女別産業人口と特化係数	15
(15)	雇用力と稼ぐ力	16
(16)	製造品出荷額等・従業者数の推移	17
(17)	観光客数の推移	17
(18)	通勤・通学の状況	18
2	将来人口の推計	
(1)	これまでの趨勢で推移する場合の人口の将来推計	19
(2)	男女別年齢階級別人口構成の将来予測	20
(3)	人口の変化が地域の将来に与える影響	21
III	人口の将来展望等	
1	将来展望に必要な調査・分析	
(1)	結婚・出産・子育てに関する市民アンケート調査	23
(2)	高校生進路希望状況調査	27
(3)	転入・転出に関する意向調査	29
2	目指すべき将来の方向	
(1)	若い世代の希望を実現し出生率を向上させる	30
(2)	若者の社会減に歯止めをかける	31
(3)	元気みなぎる地域を創る	31
3	人口の将来展望	32

I はじめに

1 防府市人口ビジョンの位置づけ

日本の総人口は、平成 20 年（2008 年）の 1 億 2,808 万人をピークとして減少局面に入っており、このままでは、約 100 年後の平成 112 年(2100 年)には 5,000 万人を割り込む水準まで減少するという推計が示されています。

人口減少社会が進行する中、国においては、我が国が直面する人口減少克服・地方創生という構造的課題に正面から取り組むため、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行するとともに、同年 12 月には、国と地方が総力を挙げて取り組むうえでの指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が策定されました。

この国の長期ビジョンでは、①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決の 3 点を基本的視点として掲げ、目指すべき将来の方向を、将来にわたって「活力ある日本社会」を維持するとし、人口減少に歯止めがかかることにより、平成 72 年（2060 年）に 1 億人程度の人口が確保されることが見込まれています。

まち・ひと・しごと創生は、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組むことが重要であり、「防府市人口ビジョン」は、国の長期ビジョン及び山口県の人口ビジョンの趣旨を尊重し、本市の実情を踏まえて策定したものです。

本ビジョンは、本市の人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と将来展望を提示するものであり、人口に関する認識を市全体で共有し、今後、地方創生の実現に向けた取組を進めていくうえでの指針として位置づけています。

2 対象期間

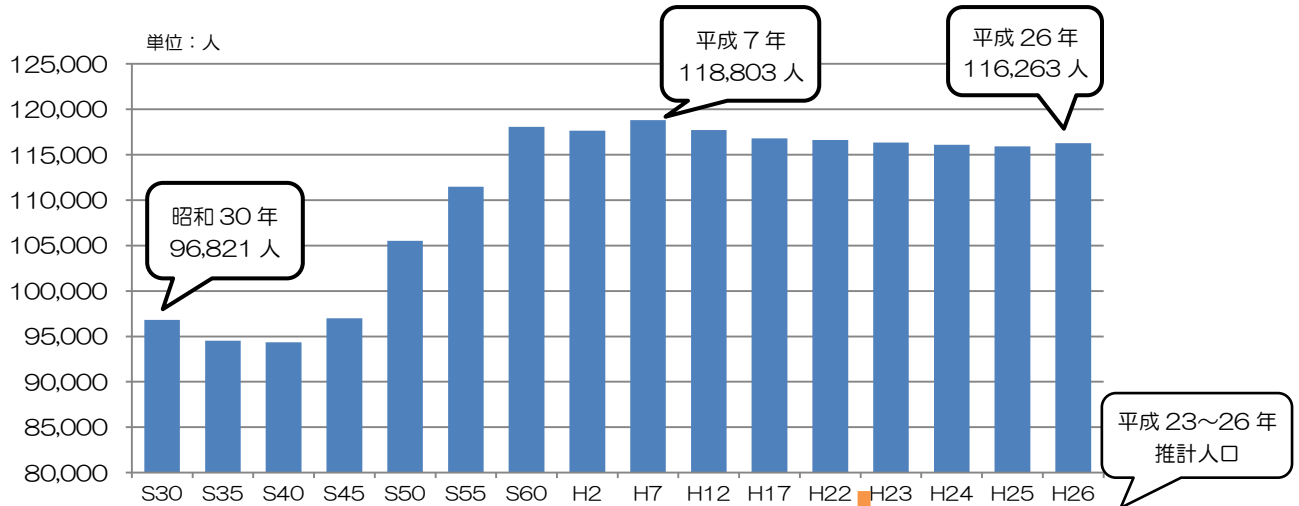
人口ビジョンの期間は、国の長期ビジョン及び山口県の人口ビジョンを踏まえて、平成 72 年（2060 年）までとします。

Ⅱ 人口の現状と将来分析

1 人口の動向分析

(1) 総人口の推移

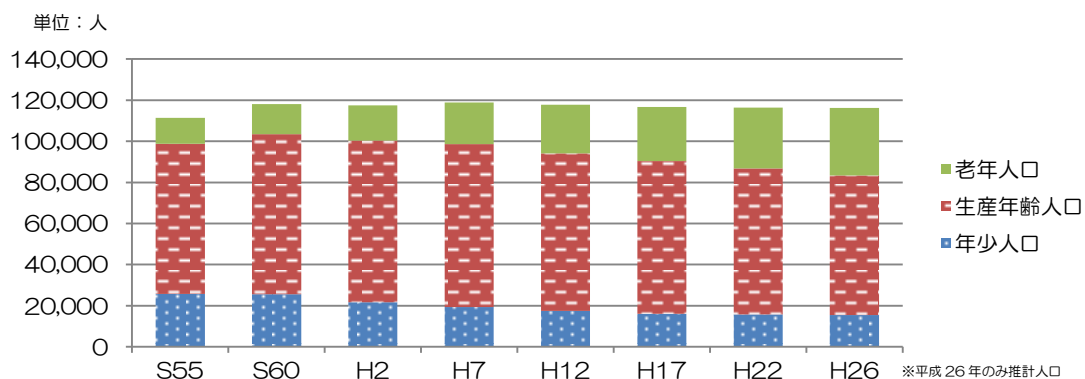
本市の総人口は、現在の市域となった昭和30年は96,821人であり、昭和40年までは減少傾向にあったものの、その後人口増に転じ、平成7年の国勢調査では118,803人となりました。以降、減少傾向にあります。ほぼ横ばいで推移しており、平成26年には116,263人となっています。



出典) 国勢調査、市町年齢別推計人口(山口県)

(2) 年齢3区分別人口の推移

昭和55年と平成26年の年齢3区分別人口を比較すると、年少人口(0~14歳)は約4割減少し15,470人となっています。一方、老年人口(65歳以上)は約2.5倍の32,860人となっています。このことから、総人口はほぼ横ばいで推移していますが、少子高齢化が進行していることがわかります。



	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26	S55→H26
年少人口(0~14歳)	25,673	25,519	21,714	19,408	17,545	16,144	15,771	15,470	60%
生産年齢人口(15~64歳)	73,106	77,874	78,607	79,178	76,568	74,202	71,042	67,932	93%
老年人口(65歳以上)	12,657	14,671	17,149	20,217	23,610	26,387	29,506	32,860	260%
総人口	111,468	118,067	117,634	118,803	117,724	116,818	116,611	116,263	104%

※総人口には年齢不詳人口を含む

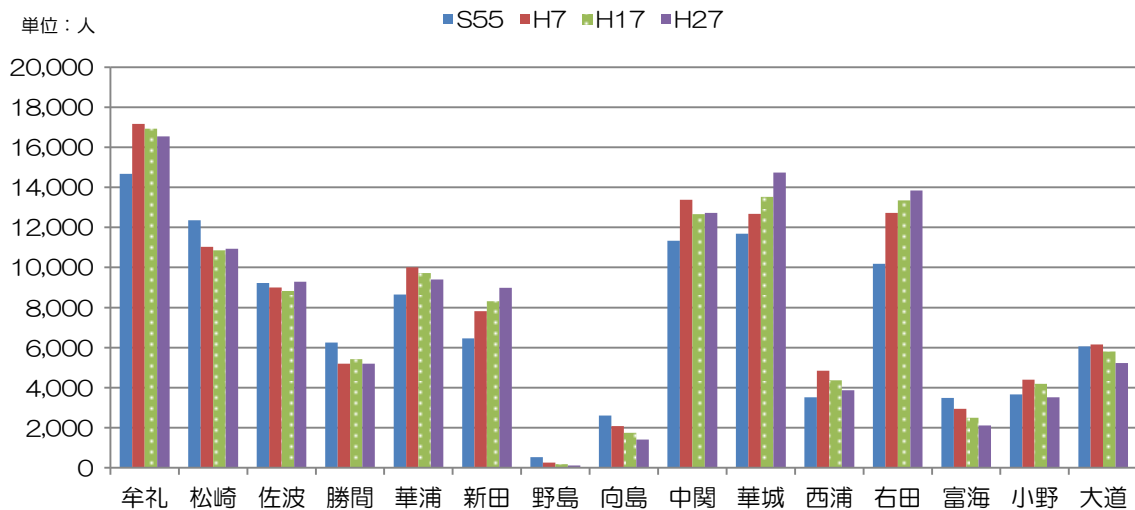
出典) 国勢調査、市町年齢別推計人口(山口県)

(3) 地区別人口の推移

昭和55年と平成27年の地区別人口を比較した場合、新田・華城・右田地区の3地区は、特に人口が増加している地区であり、この3地区においては、年少人口・生産年齢人口・老年人口のいずれの区分についても増加しています。

一方、野島・向島・富海地区の3地区は、特に人口が減少している地区であり、この3地区においては、年少人口・生産年齢人口の減少が著しい地区となっています。

【地区別人口の推移】



出典) 住民基本台帳 (各年4月1日時点)

地区	単位：人、%								S55を100%とした時の変化率
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	
牟礼	14,675	16,016	16,784	17,160	17,027	16,948	16,531	16,542	113%
松崎	12,350	11,732	11,348	11,026	10,812	10,863	10,993	10,927	88%
佐波	9,216	9,139	8,890	9,000	8,924	8,840	8,984	9,295	101%
勝間	6,251	6,143	5,528	5,188	5,333	5,438	5,162	5,200	83%
華浦	8,649	8,914	8,406	10,004	9,886	9,729	9,468	9,397	109%
新田	6,455	7,344	7,685	7,821	8,180	8,332	8,669	8,985	139%
野島	534	384	329	258	233	187	143	109	20%
向島	2,612	2,379	2,210	2,083	1,929	1,752	1,607	1,412	54%
中関	11,325	13,115	13,069	13,379	12,833	12,675	12,486	12,726	112%
華城	11,691	13,314	13,573	12,673	13,215	13,546	14,238	14,739	126%
西浦	3,525	4,527	4,577	4,837	4,335	4,388	4,344	3,873	110%
右田	10,188	10,525	12,000	12,727	13,233	13,370	13,594	13,842	136%
富海	3,482	3,402	3,157	2,950	2,715	2,513	2,308	2,110	61%
小野	3,658	4,140	4,305	4,396	4,403	4,208	3,838	3,517	96%
大道	6,056	6,499	6,345	6,158	6,023	5,824	5,463	5,234	86%
全体	110,667	117,573	118,206	119,660	119,081	118,613	117,828	117,908	107%

出典) 住民基本台帳 (各年4月1日時点)

【地区別年少人口の推移（S55～H27）】

地区	単位：人、%									S55を100%とした時の変化率
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	S55→H27	
牟礼	2,557	3,727	3,268	2,874	2,540	2,369	2,257	2,133	83%	
松崎	1,695	2,179	1,716	1,516	1,422	1,488	1,485	1,441	85%	
佐波	1,367	1,808	1,546	1,437	1,323	1,206	1,187	1,226	90%	
勝間	912	1,224	876	675	717	791	753	688	75%	
華浦	1,340	1,901	1,447	1,592	1,426	1,289	1,222	1,243	93%	
新田	1,081	1,769	1,674	1,544	1,491	1,388	1,366	1,307	121%	
野島	33	30	23	12	8	4	2	0	0%	
向島	321	386	274	214	180	156	125	84	26%	
中関	2,173	3,416	2,929	2,652	2,166	2,035	1,944	1,899	87%	
華城	1,984	3,064	2,588	2,180	2,154	2,064	2,088	2,216	112%	
西浦	435	934	882	746	569	448	351	356	82%	
右田	1,708	2,302	2,473	2,321	2,234	1,930	1,986	1,980	116%	
富海	434	593	398	293	208	174	172	140	32%	
小野	480	836	782	646	501	444	395	324	68%	
大道	914	1,368	1,127	887	773	676	585	521	57%	
全体	17,434	25,537	22,003	19,589	17,712	16,462	15,918	15,558	89%	

出典）住民基本台帳（各年4月1日時点）

【地区別生産年齢人口の推移（S55～H27）】

地区	単位：人、%									S55を100%とした時の変化率
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	S55→H27	
牟礼	10,252	10,631	11,520	11,783	11,412	10,927	9,948	9,391	92%	
松崎	8,338	7,701	7,535	7,177	6,749	6,583	6,428	6,152	74%	
佐波	6,548	6,255	6,060	6,019	5,827	5,604	5,553	5,480	84%	
勝間	4,299	4,082	3,699	3,423	3,402	3,376	3,069	3,063	71%	
華浦	5,886	5,904	5,667	6,703	6,458	6,204	5,773	5,397	92%	
新田	4,473	4,822	5,119	5,247	5,441	5,441	5,500	5,578	125%	
野島	371	257	197	132	104	66	39	28	8%	
向島	1,752	1,568	1,453	1,311	1,139	981	845	681	39%	
中関	7,903	8,628	8,883	9,216	8,840	8,558	8,160	7,972	101%	
華城	8,313	9,040	9,499	8,754	8,875	8,836	9,079	9,043	109%	
西浦	2,353	2,986	3,009	3,312	2,876	2,989	2,963	2,318	99%	
右田	6,839	6,853	7,852	8,384	8,653	8,784	8,543	8,211	120%	
富海	2,257	2,160	2,004	1,804	1,612	1,435	1,178	969	43%	
小野	2,399	2,647	2,750	2,871	2,801	2,593	2,253	1,865	78%	
大道	3,919	4,103	4,055	3,958	3,738	3,497	3,119	2,731	70%	
全体	75,902	77,637	79,302	80,094	77,927	75,874	72,450	68,879	91%	

出典）住民基本台帳（各年4月1日時点）

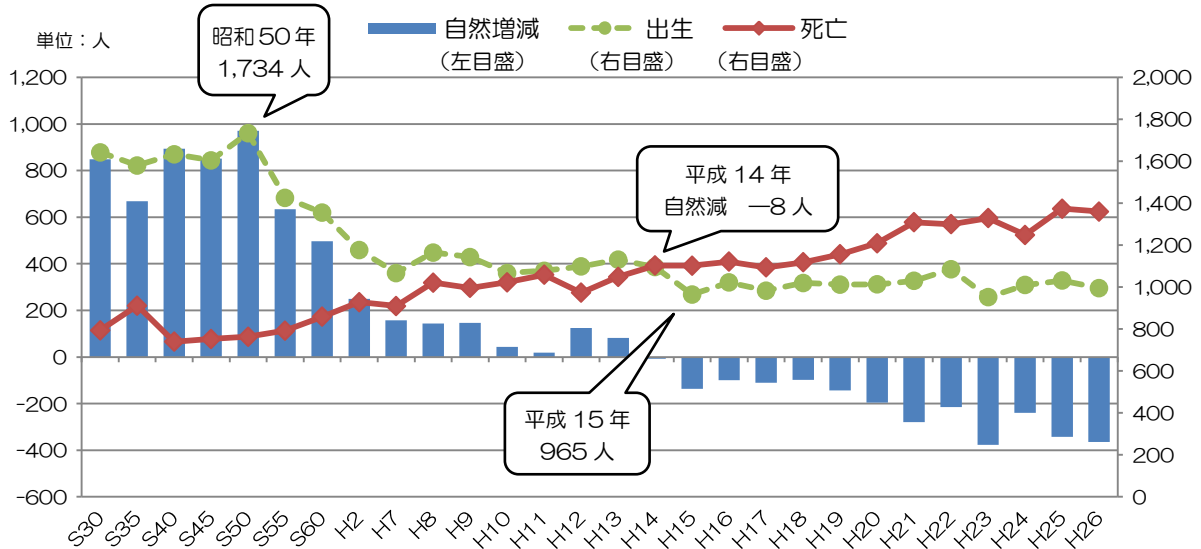
【地区別老年人口の推移（S55～H27）】

地区	単位：人、%									S55を100%とした時の変化率
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	S55→H27	
牟礼	1,866	1,658	1,996	2,503	3,075	3,652	4,326	5,018	269%	
松崎	2,317	1,852	2,097	2,333	2,641	2,792	3,080	3,334	144%	
佐波	1,301	1,076	1,284	1,544	1,774	2,030	2,244	2,589	199%	
勝間	1,040	837	953	1,090	1,214	1,271	1,340	1,449	139%	
華浦	1,423	1,109	1,292	1,709	2,002	2,236	2,473	2,757	194%	
新田	901	753	892	1,030	1,248	1,503	1,803	2,100	233%	
野島	130	97	109	114	121	117	102	81	62%	
向島	539	425	483	558	610	615	637	647	120%	
中関	1,249	1,071	1,257	1,511	1,827	2,082	2,382	2,855	229%	
華城	1,394	1,210	1,486	1,739	2,186	2,646	3,071	3,480	250%	
西浦	737	607	686	779	890	951	1,030	1,199	163%	
右田	1,641	1,370	1,675	2,022	2,346	2,656	3,065	3,651	222%	
富海	791	649	755	853	895	904	958	1,001	127%	
小野	779	657	773	879	1,101	1,171	1,190	1,328	170%	
大道	1,223	1,028	1,163	1,313	1,512	1,651	1,759	1,982	162%	
全体	17,331	14,399	16,901	19,977	23,442	26,277	29,460	33,471	193%	

出典）住民基本台帳（各年4月1日時点）

(4) 出生数・死亡数の推移

出生数については、昭和50年の1,734人をピークに年々減少し、平成15年に1,000人を割り込んだ後、ほぼ横ばいで推移しています。一方、死亡数は老年人口の増加（P2参照）とともに増加傾向にあります。また、平成14年以降は死亡数が出生数を上回り、自然減で推移しています。



	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H8	H9	H10	H11	H12
出生数	1,642	1,580	1,633	1,604	1,734	1,426	1,355	1,177	1,067	1,165	1,143	1,067	1,078	1,098
死亡数	794	911	740	753	763	792	859	928	910	1,021	996	1,023	1,059	973
自然増減*	848	669	893	851	971	634	496	249	157	144	147	44	19	125

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
出生数	1,131	1,095	965	1,022	983	1,020	1,012	1,013	1,030	1,085	952	1,010	1,031	995
死亡数	1,049	1,103	1,102	1,121	1,094	1,118	1,156	1,209	1,309	1,300	1,329	1,249	1,374	1,360
自然増減	82	-8	-137	-99	-111	-98	-144	-196	-279	-215	-377	-239	-343	-365

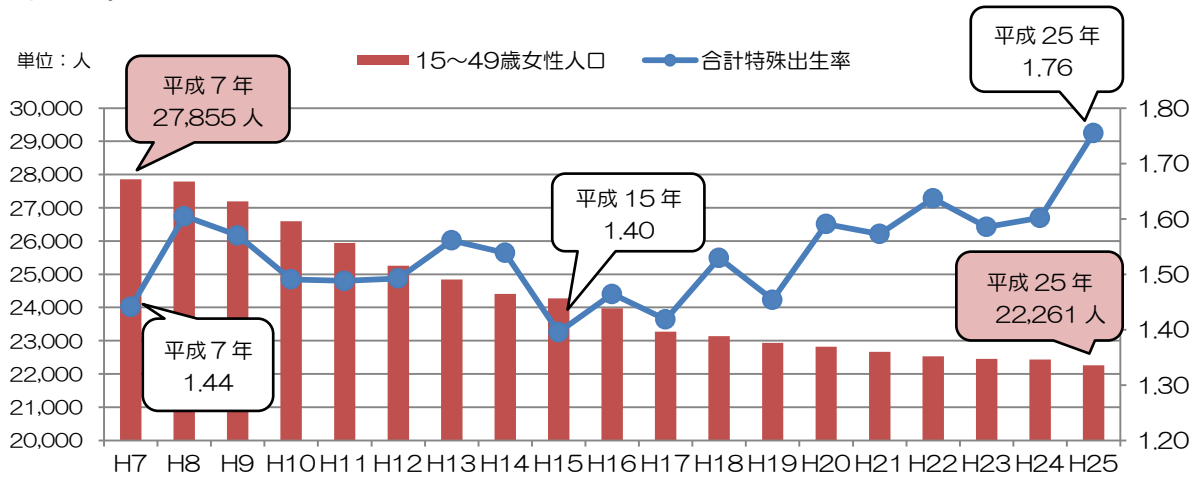
出典) 昭和30年～平成2年：住民基本台帳、平成7年以降：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）

*出典元である「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」は、平成24年までは年度（4/1～3/31）の数値であるが、調査期間が変更されたため、平成25年以降は年（1/1～12/31）における数値が用いられている（以降も同じ）。

※自然増減：出生・死亡による人口の増減のこと。

(5) 合計特殊出生率の推移

1人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当する「合計特殊出生率※」は、平成15年には1.40でしたが、それ以降上昇傾向にあり、平成25年には1.76となっています。しかし、15～49歳女性人口が減少していることから、出生数の増加にはつながっていません。



	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
合計特殊出生率	1.44	1.60	1.57	1.49	1.49	1.49	1.56	1.54	1.40	1.46
15～49歳女性人口	27,855	27,790	27,191	26,594	25,945	25,261	24,839	24,406	24,270	23,971

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
合計特殊出生率	1.42	1.53	1.45	1.59	1.57	1.64	1.59	1.60	1.76
15～49歳女性人口	23,276	23,136	22,932	22,814	22,660	22,526	22,455	22,430	22,261

* 国勢調査、市町年齢別推計人口（山口県）保健統計年報（山口県）、より算出

(参考) 全国・山口県の合計特殊出生率の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
全国	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43
山口県	1.38	1.40	1.42	1.43	1.43	1.56	1.52	1.52	1.56

出典) 人口動態調査 (厚生労働省)

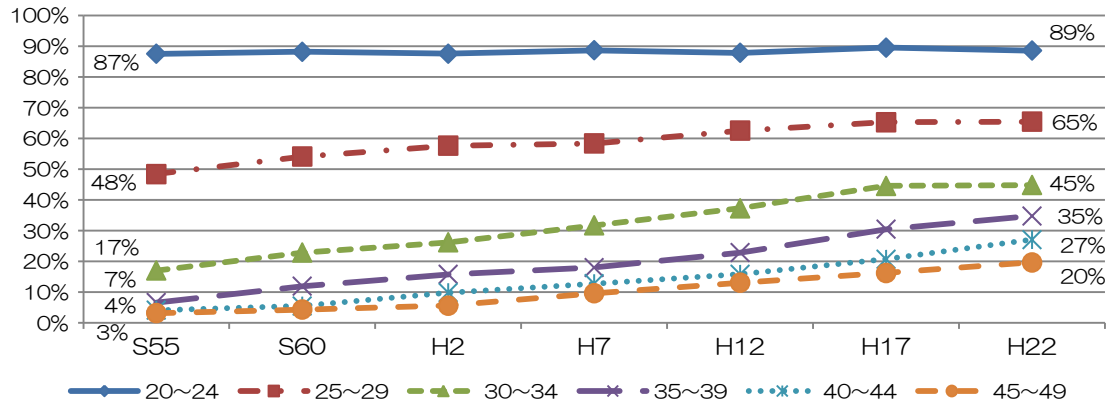
※合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

(6) 男女別 20～49 歳の未婚率の推移

昭和 55 年から平成 22 年までの男女別未婚率の推移をみると、男性・女性ともに、未婚率は全ての年齢階級で上昇しています。

また、昭和 55 年には、25～29 歳で女性の約 8 割が既婚者となっていますが、平成 22 年では、既婚者の割合が同様の約 8 割になる年齢は 35～39 歳となっており、晩婚化の傾向がうかがえます。男性も同様の傾向にあります。

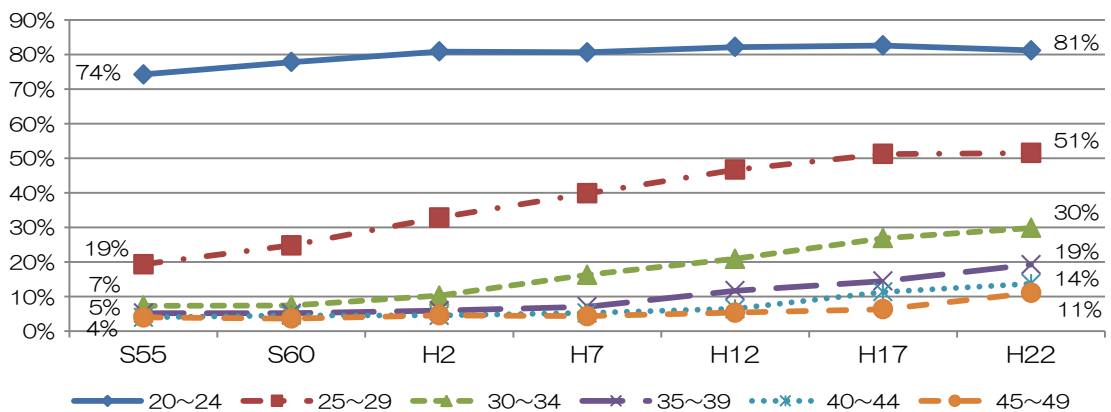
【男性の未婚率の推移】



	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
20～24	87%	88%	88%	89%	88%	90%	89%
25～29	48%	54%	58%	58%	63%	65%	65%
30～34	17%	23%	26%	32%	37%	45%	45%
35～39	7%	12%	16%	18%	23%	30%	35%
40～44	4%	6%	10%	13%	16%	21%	27%
45～49	3%	4%	6%	10%	13%	16%	20%

出典) 国勢調査

【女性の未婚率の推移】



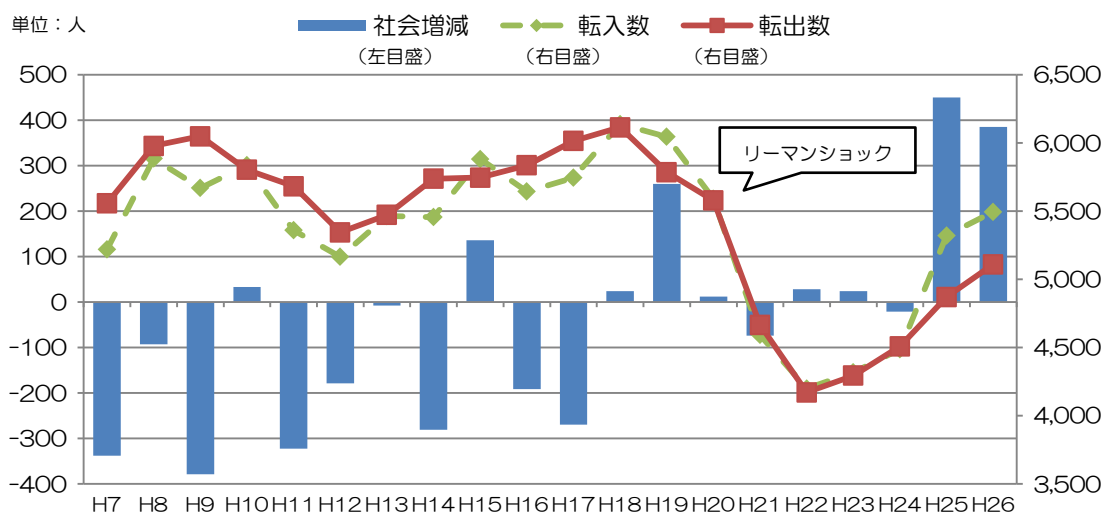
	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
20～24	74%	78%	81%	81%	82%	83%	81%
25～29	19%	25%	33%	40%	47%	51%	51%
30～34	7%	7%	10%	16%	21%	27%	30%
35～39	5%	5%	6%	7%	12%	15%	19%
40～44	4%	5%	5%	5%	7%	11%	14%
45～49	4%	4%	5%	4%	5%	6%	11%

出典) 国勢調査

(7) 転入数・転出数の推移

平成7年から平成26年までの20年間における転入数・転出数及び社会増減の推移をみると、社会増減には波がみられますが、直近の平成25年・26年は社会増となつてい

ます。
また転入数・転出数については、リーマンショックのあった平成20年以降大きく落ち込み、景気回復の見られる平成25年頃から転入数が特に上昇に転じていることなどから、景気動向に左右されていると考えられます。



	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
転入数	5,218	5,885	5,669	5,836	5,359	5,165	5,464	5,456	5,882	5,644
転出数	5,556	5,978	6,048	5,803	5,682	5,344	5,472	5,737	5,746	5,836
社会増減*	-338	-93	-379	33	-323	-179	-8	-281	136	-192

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
転入数	5,744	6,138	6,045	5,590	4,591	4,198	4,317	4,487	5,320	5,494
転出数	6,014	6,114	5,785	5,578	4,665	4,170	4,293	4,508	4,870	5,109
社会増減*	-270	24	260	12	-74	28	24	-21	450	385

出典) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)

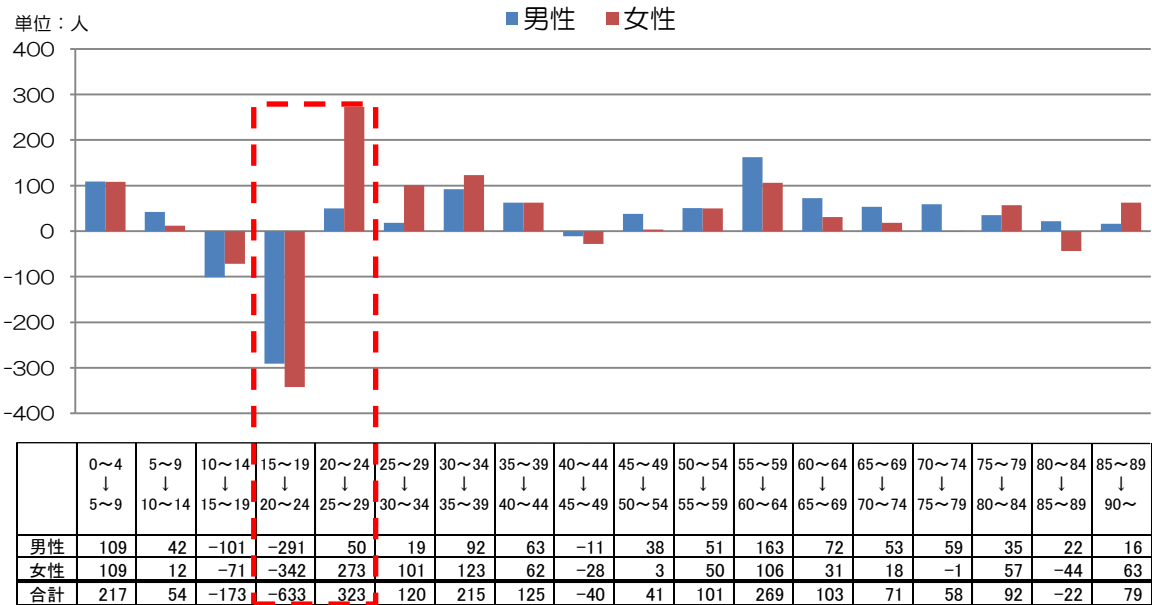
※社会増減：転入・転出による人口の増減のこと。

(8) 男女別年齢階級別人口移動の状況

平成 17 年から平成 22 年までの男女別年齢階級別人口移動の状況をみると、15～19 歳から 20～24 歳になるときに、600 人以上転出超過となっています。一方で、20～24 歳から 25～29 歳になるときに、300 人以上転入超過となっており、特に女性の転入超過が顕著となっています。

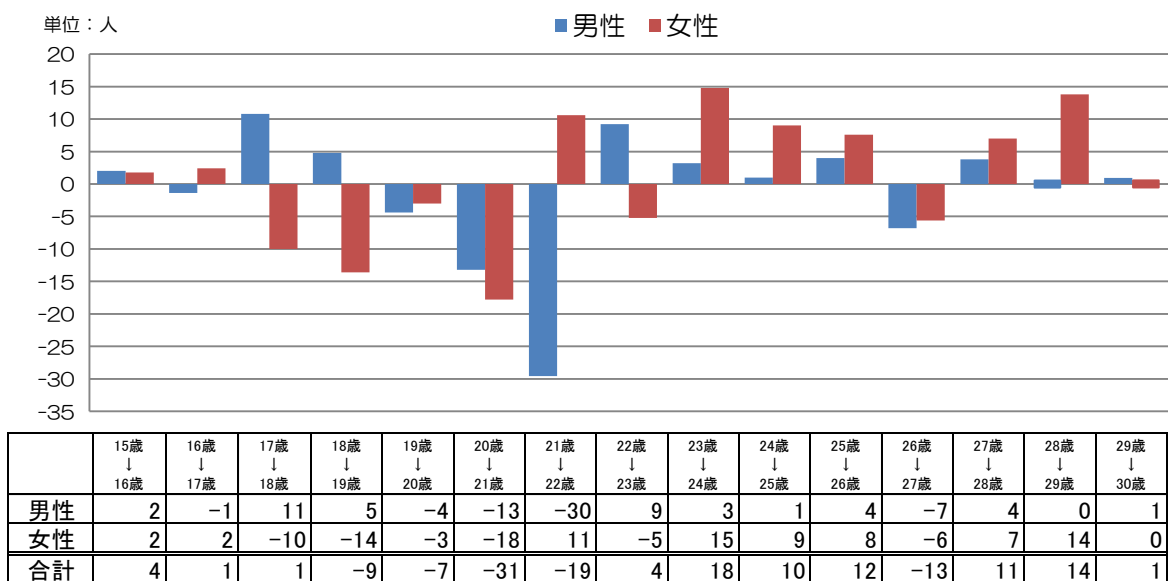
15～29 歳若者の転出入については、平成 21 年から平成 26 年までの若者の 1 歳階級別社会増減の年間平均人数をみると、男性は、20～22 歳の間に転出超過となっており、女性は、18～21 歳の間に転出超過となっています。

【5 歳階級別人口移動（平成 17 年→平成 22 年）】



出典) 国勢調査

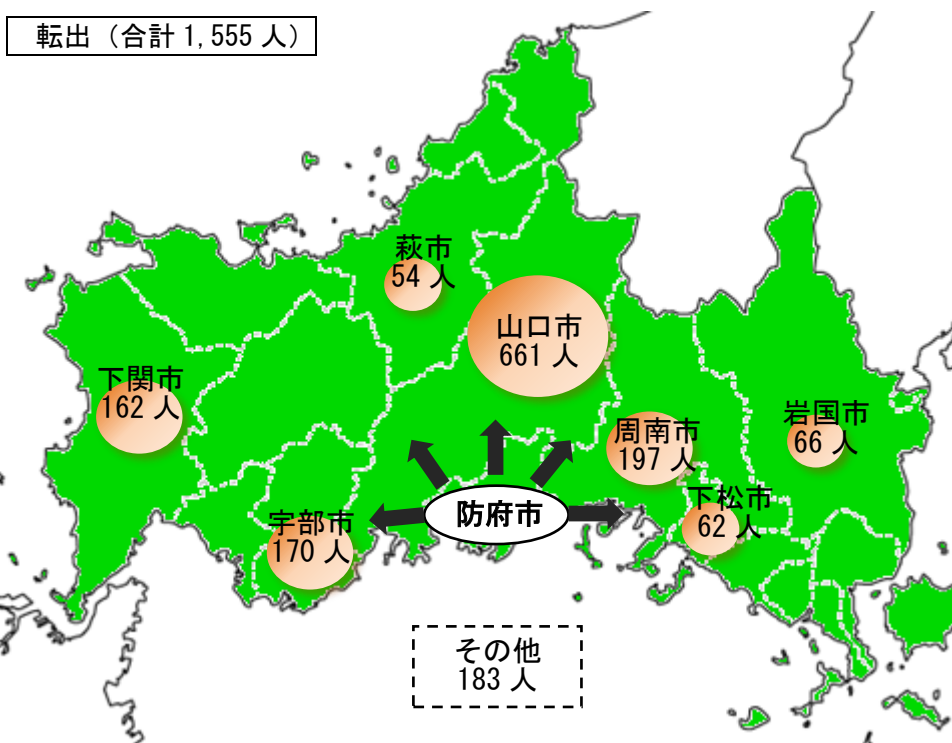
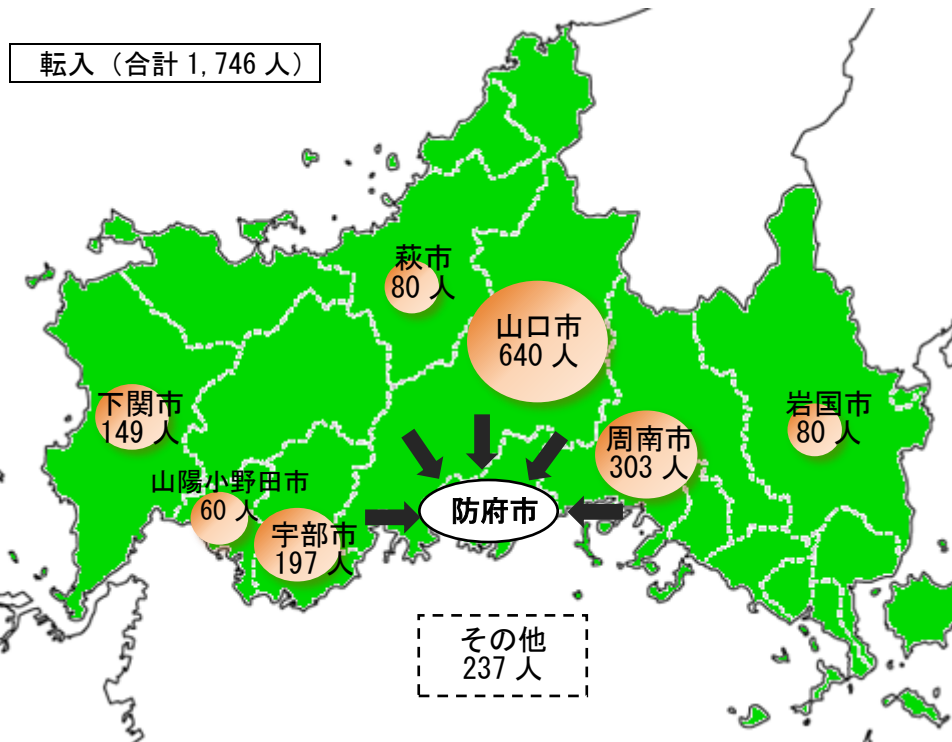
【15～29 歳の 1 歳階級別社会増減の年間平均人数（平成 21 年～平成 26 年）】



出典) 住民基本台帳（各年 10 月 1 日時点）

(9) 県内市町間の人口移動の状況（平成 25 年）

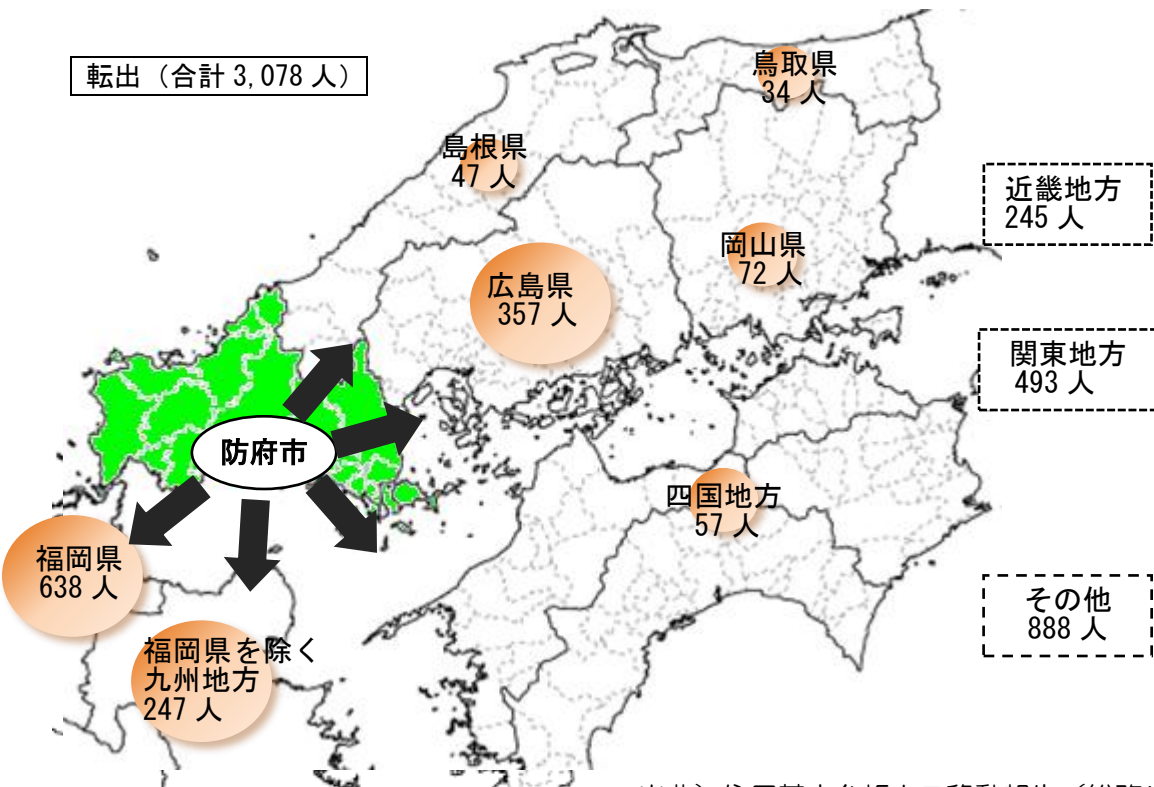
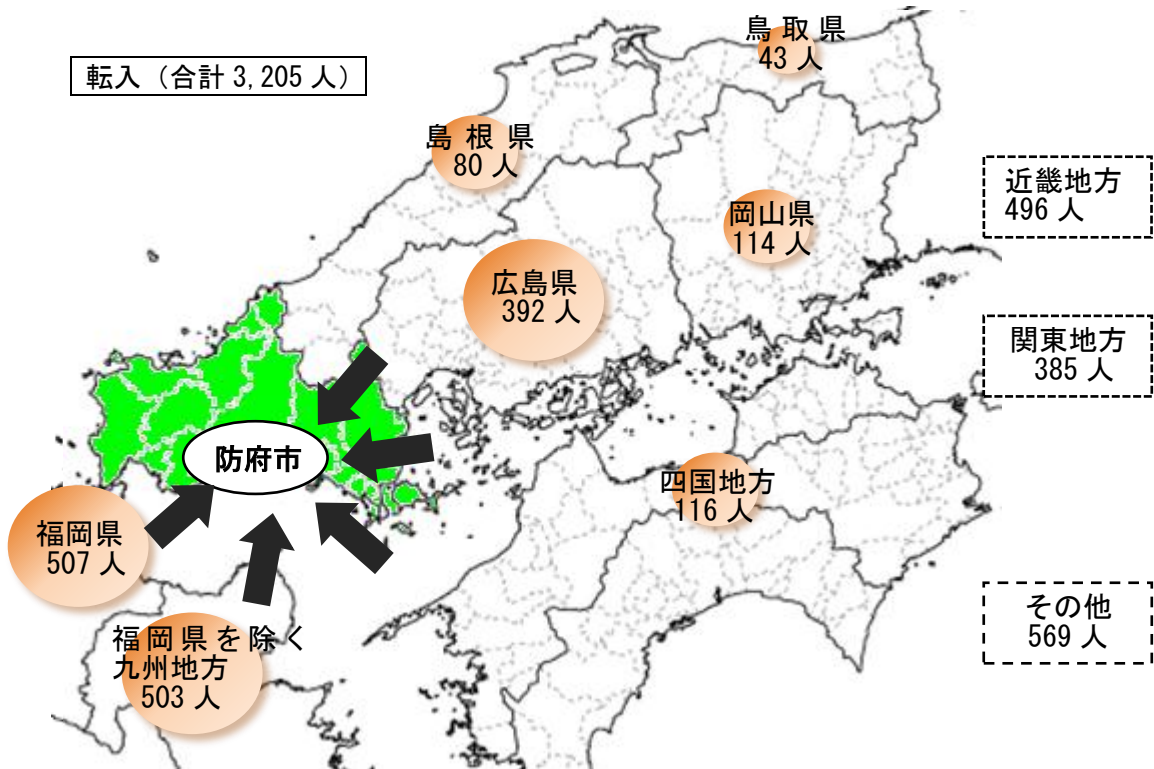
県内市町間の人口移動の状況を見ると、転入元・転出先については、いずれも山口市が最も多く、次いで周南市、宇部市、下関市の順になっています。



出典) 住民基本台帳人口移動報告 (総務省)

(10) 県外の人口移動の状況（平成 25 年）

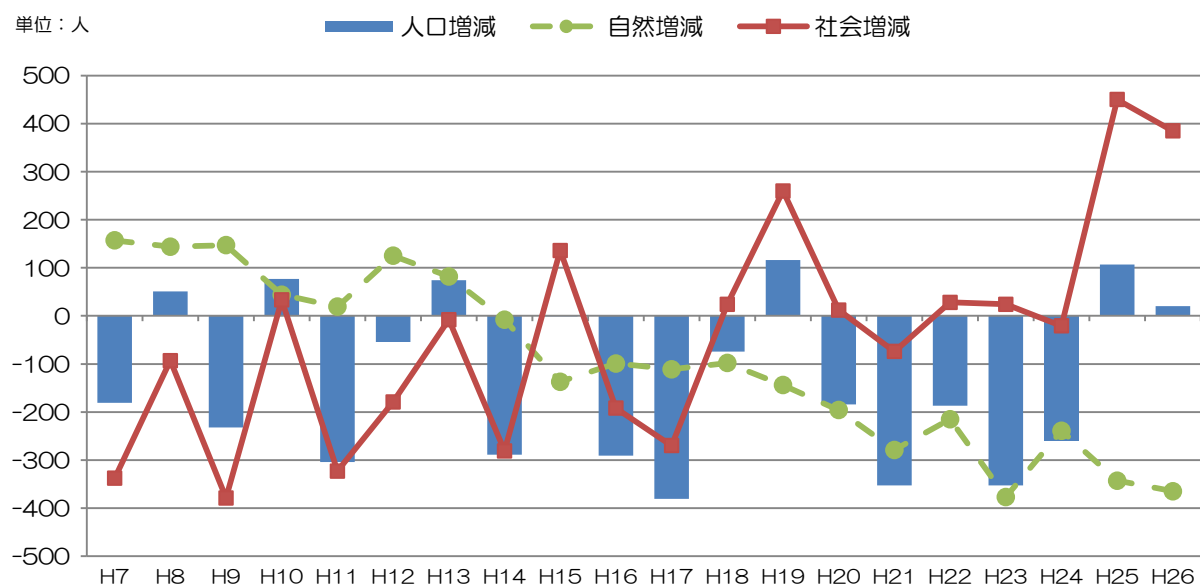
県外の人口移動の状況を見ると、福岡県や広島県からの転入・転出が多くなっています。なお、本市は航空自衛隊の教育機関があるため、全国各地からの転入・転出がみられます。



出典) 住民基本台帳人口移動報告 (総務省)

(11) 人口動態の推移

人口動態*の推移をみると、平成 24 年まで減少傾向でしたが、平成 25 年・26 年は社会増が自然減を上回ったことにより、人口増となっています。



	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
自然増減	157	144	147	44	19	125	82	-8	-137	-99
社会増減	-338	-93	-379	33	-323	-179	-8	-281	136	-192
人口増減	-181	51	-232	77	-304	-54	74	-289	-1	-291

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
自然増減	-111	-98	-144	-196	-279	-215	-377	-239	-343	-365
社会増減	-270	24	260	12	-74	28	24	-21	450	385
人口増減	-381	-74	116	-184	-353	-187	-353	-260	107	20

出典) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (総務省)

*人口動態：一定期間中における人口変動（出生、死亡、転入、転出）のこと。